

# 令和6年度福島県立石川高等学校 第1回学校運営協議会 開催記録

■日時 令和6年6月13日（木）15：00～16：30

■場所 石川高等学校 会議室

■参加者 委員

齋藤 一彦、水野 憲一、二瓶 伸一、佐川 正美、酒井 修三、宗像 研也、  
熊井 トシエ、小川 和英

（欠席：石沢 泰蔵）

事務局（石川高等学校）

教頭、事務長、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、  
地域連携推進担当、石川町高校魅力化コーディネーター

## 1 開会のことば 川村教頭

## 2 校長あいさつ 小川校長

校長の小川でございます。お忙しいところ、第1回福島県立石川高等学校運営協議会にご参加いただきありがとうございます。

さて、ご存じの通り今年度より、本校は地域との協働による教育活動の充実と地域社会を支え地域創生の核となる人作りを推進する、県内7校目の地域協働推進校としてスタートしました。

高校を核とした地方創生の実現を目指した取組としては、島根県の隠岐島前高校の取組が有名です。この成功を受けて、島根県では平成23年度から「離島・中山間地域での高校魅力化・活性化事業」をスタートさせています。

この事業の該当校の生徒さんからは、「地域の特色を活かした授業の効果」として次のようなアンケート結果がでています。

- |                             |     |
|-----------------------------|-----|
| ①「町で頑張っている大人がいることを知った」      | 85% |
| ②「町について知らなかったことを知ることができた」   | 82% |
| ③「自分たちが頑張れば地域が元気になることが分かった」 | 68% |
| ④「自分たちの町を誇りに思えた」            | 67% |

高校生にとって、自分たちの世界から一步踏み出し世界の広さを知ること自体が喜びであり、そのことが、自分や周囲の価値の再認識につながる事が分かる結果かと思われれます。

「何かを変えたいなら、まず知ることから始める」でしょうか。

では、この協議会ですが、今年度は一年目です。結果を追い求めすぎず、少し遠回り

道ですが、まずはここにお集まりの皆さんで、本校のことをじっくりと知っていただき、考え、議論できる土壌を今年度はつくることができればよいのかと思っています。

最後になりますが、皆さんと一緒に本校の今とこれからについてお話ができますことを非常に嬉しく思っておりますことをお伝えしまして私のあいさつとさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

### 3 委員任命・自己紹介

委嘱状交付（机上配付）

出席者自己紹介（委員及び事務局）

### 4 会長、副会長選出

立候補、推薦等なかったため、事務局より、会長に同窓会会長 熊井 トシエ氏、副会長に石川町商工会会長 齋藤 一彦氏を提案。全会一致で承認された。

### 5 会長あいさつ 熊井会長

只今、運営協議会会長に選出いただきました、県立石川高等学校同窓会会長の熊井トシエと申します。昨年度、石川高校は創立100周年を終え、今年度よりコミュニティスクールとして新たにスタートを切ります。運営協議会の会長として、皆様のお力添えをいただきながら石川高校をサポートしてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

### 6 定足数確認

出席者8名、欠席者1名。定足数（委員の過半数）を満たしていることから、本協議会は成立していることを事務局より報告。

### 7 全体協議 進行：熊井会長

#### （1）石川高等学校学校運営協議会について 川村教頭

事務局よりスライド資料に基づき説明。質疑等なし。

#### （2）令和6年度石川高等学校経営・運営ビジョン及び学校概要について 小川校長

小川校長より資料P7等に基づき説明。質疑等なし。

○教育方針について

課題解決能力が求められる時代に、自ら目標を定め、目標達成のために見通しを持って意欲的に実行できる生徒を育成します。

○地域と連携した多様な教育機会について

石川郡内は、学校内だけではなく地域に踏み出すと、様々な知、人、場所などを通じて多くの事を経験でき、生徒が成長できる教育環境に恵まれている。さらに、多様で様々な個性、興味や関心が尊重される教育環境をこれから一層充実させたい。

○重点目標について

①基礎学力の定着と課題解決能力の育成を図る。

思考力・判断力・表現力の礎となる基礎学力の定着を図り、ICT を活用しながら、探究的で発展的な学力定着を目指す。「いしかわ WORK&LIFE 教育」をとおして、体験的な学びを充実させ、調和と協働の活動経験から課題解決能力を育成し、地域に貢献できる人材を育てたい。

②豊かな心と健やかな体を育てます。

自律的に生活ができる生徒の育成を掲げている。結果として、人権意識が醸成され、安全、防災に係る生命を大切にする心が育まれ、さらには、公共心にあふれた良き社会人となる基礎づくりの教育環境が本校において整えられる。また、今年度より1年生全員に対し、スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施した。

生徒会活動では、各種行事を全校生徒型にしながら、生徒の主体性も伸ばしていきたい。

③進路実現の100%実現を目指します。

各種進路行事をとおして就業意識の高揚や、進学への研鑽期間の充実を図っている。石川町企画商工課主催の企業説明会を利し、社会的・職業的自立に必要な態度を育てる機会も得られている。保護者への情報提供は不足無く迅速に行い、家庭と協力関係を強固にしながら、生徒の進路実現を果たしていきたい。

④信頼される開かれた学校づくりを進めます。

今年度より学校運営協議会が始まった。地域からのご意見を大切にしながら、生徒のみならず、教育資源を提供される地域の方々への生きがいにもつながる教育活動を目指していきたい。学校運営協議会の様子は、HPにて随時、情報発信を適切に実施していきます。

(小川校長 学校概要説明要旨)

学校概況について

① 沿革

大正12年に石川実科高等女学校として設立され、石川高等女学校、石川女子高等学校を経て、昭和24年に石川高等学校となった。令和5年には創立百周年を迎えた。

② 校訓「自律・進取・信義」

「自律」⇒ 自分で自分をコントロールする

「進取」⇒ 自分から進んで物事を行う

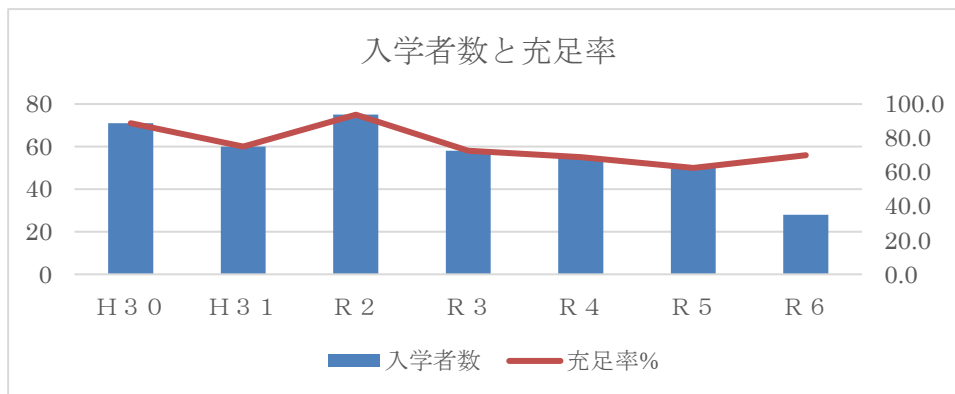
「信義」⇒ 約束を守り、真心を持って行動する

③ 現況

今年度より、1学級本校化に併せてコミュニティスクール校となり、地域との一層の協働による学校運営を進めている。具体的には、「いしかわ WORK & LIFE 教育」を通じたキャリア教育や探究活動に加え、教科学習、学校行事、部活動等学校生活全般にわたり、地域にご協力をいただきながら学びの充実に努めている。

④ 入学者数の推移

特色選抜が始まった令和2年度は、40名2クラスの募集に対し、87.5%の充足率を占めた。以降、減少が続いている。

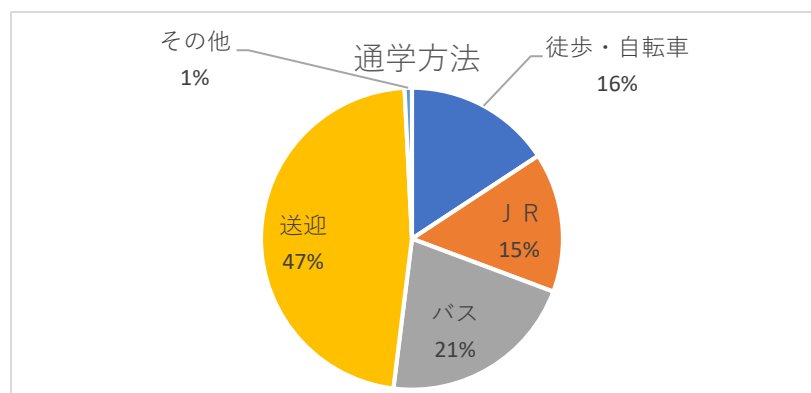


⑤ 出身中学

・1学級本校化の影響もあり、令和6年度の入学者数は前年度の半分近く。石川郡内の占有率は78.2%（R4）、72.0%（R5）、64.3%（R6）と減少傾向にある。石川郡内の中学生への働きかけが課題である一方、須賀川市や郡山市からの入学希望者もあり、郡内に止まらず、広域に本校の良さを広報できるチャンスにもある。

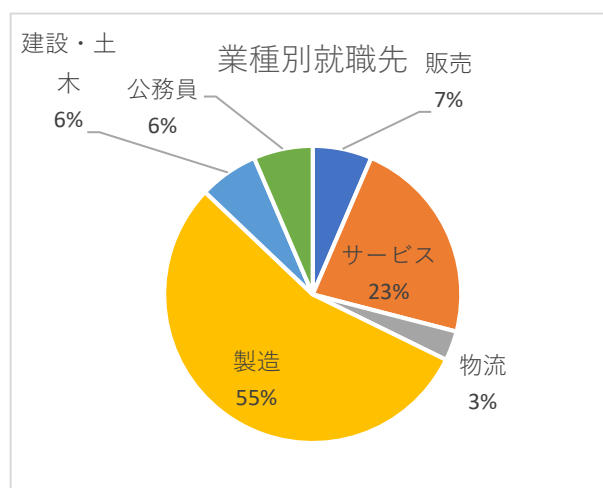
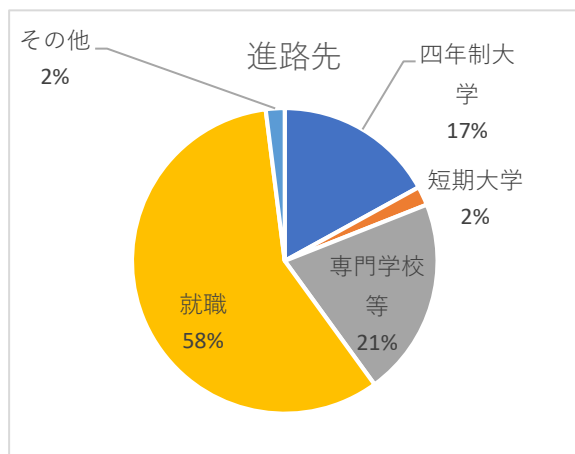
⑥ 通学方法

送迎が多く、公共交通機関を利用する生徒は、4割弱である。



⑦ 進路概況

令和5年度進路先について



	県内	県外	合計
男子	19	1	20
女子	9	2	11
計	28	3	31

(地域別就職先)

・令和5年度は進学と就職の比率が約4：6であった。大学から就職まで幅広い進路指導が求められる。

⑧ 教育課程

○ 2、3年生は、4コース制を取り、学び方や学びの目的に合わせた学びのグループを設置している。

「発展学習」：4年制大学等上級学校への進学対応

「技能向上」：ビジネス文書検定、情報処理検定等の資格取得

「学力向上」：基礎学力の定着

「キャリア」：学校設定教科であるキャリアチャレンジをとおしたキャリア教育

※ キャリアチャレンジ

本校の教育課程の特色。週に1日企業等の事業所で就業体験を行う授業。キャリアチャレンジの曜日は登校せずに、事業所に出勤し、終日就業体験を行う。2年生は前後期で2事業所、3年生は通年で1事業所での実習となる。製造、サービス、町役場など業種・職種は多岐にわたる。

⑨ 1年生が2年次になると、2つのコース制に分かれる。

「アカデミック探究コース」：興味関心や進路希望に合わせて科目を選択し学ぶことができるコース 資格取得、4年制大学等上級学校への進学にも対応

「キャリア探究コース」：キャリアチャレンジをとおして学ぶことができるコース

⑩ 地域と連携した特色ある学校づくり

○ 学校運営協議会

- ・地域との協働による学校運営を根幹に、PTA会長、同窓会長、石川町商工会長、石川町役場職員、石川小学校長、石川中学校長、石川高校校長から成る委員構成である。
- ・学習、生徒指導、課外活動、地域活動の面から、魅力ある教育活動の構築と地域の活性化をめざす。
- ・地域と連携した特色ある学校づくりに力を入れている。本校の教育活動の充実が地域の活性化にいかに関わりつるか、鋭意発展に努めたい。
- ・県立高校としての特色ある学びを推進し、そのことが地域の活性化につなげていくことを目指した魅力ある学校づくりが課題でもあり目標でもある。

○ 「いしかわ WORK&LIFE 教育」

- ・石川町、石川町商工会、石川高校の3者で提携している。また、本教育は「キャリアチャレンジ」と「地域創造探究（総合的な探究の時間に実施）」の2本柱である。令和6年度は、石川町より石川町魅力化コーディネーターを派遣していただいている。
- ・本校の特色として「いしかわ WORK&LIFE 教育」や探究活動があるが、生徒減、教員減、予算減に伴う教育活動の縮小が不安材料である。

○ 町の各種事業への参加・協力

- ・「石川町議員さんとの意見交換会」、「石川町との合同避難訓練」、「石川町青年の主張大会」、「まちのリビングプロジェクト」等、数多くの生徒の活躍の場をいただいている。
- 自由民権運動ゆかりの「鈴木重謙屋敷」で生徒会立会演説会を実施し、主権者教育も充実させている。
- 福島県立石川高等学校振興連絡協議会
  - ・石川郡の首長、議長、教育長、中学校長、商工会、同窓会、PTA等のメンバーで組織され、1学級本校化での存続に向けた活動を頂戴した。

### (3) 令和6年度学校運営協議会のコンセプトについて 川村教頭

事務局より、「小さな学校だからこそその地域と連携したカラフルな教育の提供」としてはどうかとの提案があり、質疑等なく全会一致で承認された。

### (4) その他

#### ①旅費及び報酬について 太田事務長

事務局より資料P14に基づき説明。

#### ②その他

特になし。

## 8 各部会 進行：齋藤副会長

部会の構成員及び部会長、副部会長については、資料P5に記載の事務局案のとおりとすることで了承された。

### (1) 部会の進め方について 川村教頭

事務局より、部会ごとに、学校経営・運営ビジョン及び各部の重点事項を基に現状報告を行った上で、今年度の成果目標及び活動案のアイデア出しを行っていただくことを説明。

### (2) 各部会による協議

各部会に分かれて協議。

### (3) 全体報告

各部会長より協議結果を報告（記録のとおり）。

事務局より、今ほど各部会からいただいたアイデアを本校教職員全体で検討させていただき、委員の皆様には7月初めに検討結果をお伝えするので事前にご検討いただき、その検討結果を持ち寄り第2回運営協議会で今年度の成果目標と活動を決定したいと考えていること、また、成果目標にもう一つ「石川高校に関わった方の生きがいに結びついたか」を加えたいと考えており、第2回運営協議会に正式にお諮りしたいことを説明。質疑等なし。

**9 事務連絡 川村教頭**

事務局より、第2回の日程は7月29日又は30日を検討しており、委員の皆様  
後日メールでご都合をお伺いすること、また、第2回からは傍聴者を許可すること  
とし、その方法は事務局に一任いただきたいことを説明。

**10 閉会のことば 齋藤副会長**